

# さんだ し 里山めぐり

令和 4 年

12月号

第 6 号



過去号はこちら↑

## ● イベント報告 ● 『たき火でティータイム』 — 木器『もりんちゅうの会』 —

里山で柴(しば)を集め、火を起こしてお茶を楽しむ『たき火でティータイム』が11月20日、三田市木器(こうづき)で開かれ、23名が一般参加しました。アウトドア体験をつうじて、里山保全の大切さを知ってもらうのが狙いで、開催場である木器の里山保全に取りくむボランティア団体、『もりんちゅうの会』が企画されました。

講師のイジット・リーさんは、宝塚市を拠点に自然を利用したアウトドア活動を啓発する団体「ブリティッシュ・ブッシュ・クラフト」の日本代表として活動されています。



まずは柴あつめ。鉛筆の芯の太さ、鉛筆の太さ、指の太さ・・・と太さごとに分けて、落ちている枝を集めていきます。

つぎに火起こし。金属の火起こし器で火花を飛ばし、乾燥させた草に火をつけます。これが上手にできるかが山場です。草に火がつけば、あとは細い枝から順に火を移していきます。参加者は3班に分かれて挑戦しましたが、すぐできた班もあれば、苦戦した班も。でもいいんです、苦勞の分、その火で淹れたお茶の味もひとしおです。



コップや菓子受けも自然にあるものを使います。里山林にある竹林から切り出してきた竹を、参加者自身で好きなサイズにカットします。健やかな里山で、自然を利用して淹れたお茶をお供(とも)に、家族や仲間とリラックスした時を過ごす。とても素敵なイベントとなりました。

リーさんにとって『ブッシュクラフトとは、アウトドア生活の手助けをするための自然を利用する能力です。最小限の装備で外に出て、快適に過ごすことができるというのは、身につける素晴らしいスキルです。』とのこと。今回のイベントを通じて、里山はブッシュクラフトに相性のよい最高の環境だと実感しました。



お茶を楽しんだあとは、棒を木板にこすりつける、きりもみ式の火起こしを体験しました。金属の火起こし器と違って、火種をつくるのはとても大変。大人が顔を真っ赤にさせて、筋肉痛になりながら、ようやく火つけすることができました。

ちなみに使った棒は、なんとセイタカアワダチソウの茎を乾燥させたものだそうです。きりもみで力がかかりますが、折れる様子はありません。北アメリカからやってきた困りものの外来種というイメージですが、こんな有効利用があったのですね。



昼食のあとは、普段の里山整備で出た、ほど木を使って栽培されているシイタケの収穫体験をしました。手のひらより大きく育ったシイタケがたくさんできていて、とてもおいしそうです。

また、同じ敷地内に建つ、かやぶき民家を見学しました。江戸時代の終わり頃に建てられた由緒ある民家で、国鉄(今の JR)の初代総裁・下山定則氏の父親の生家だそうです。立派な建物ですが、屋根の葺き替えなどの管理には、大変なお金と労力がかかり、持ち主の方にとっては苦勞される面もあるそうです。今では貴重なかやぶきの建物、新たな活用法を探しているとのことでした。



木器の里山には、昔ながらの農村風景の全てが凝縮されていました。かやぶき民家、田畑、ため池、里山林、竹林、わき水、多様な動植物…。そんな里山に老若男女が集い、めいめいに活動し、イベントを楽しんでいます。

今後も里山×ブッシュクラフトのイベントを企画されるとのことですので、ぜひイベント情報をチェックしておいてください。「もりんちゅうの会」の活動に参加されたい方も随時募集中です。

(文責 三田市里山のまちづくり課 岡野)



ペン画はがきと消臭や土壌改良に使える竹炭のおみやげつき。おもてなしの心にあふれるイベントでした！



本イベントは三田市協働事業提案制度「ええやん！ やってみよっ！」の支援を受けて実施しています。

「もりんちゅうの会」代表 ふたぐち 二口 ☎ 090-5366-2311

木器の里山は、三田駅より小柿行バスで木器バス停、または三田駅より波豆川行バスで天満神社前バス停が最寄りです。

もりんちゅうの会の活動内容は、ハニーFM のアーカイブで！

